

「土木技術者として」

直方支部 黨秀治郎



工作中的様子です・・・

福岡県の職員として採用されて1年が経過しようとしています。直方県土整備事務所の都市施設整備課に配属されて、下水道と街路事業に携わり、一日でも早く仕事が覚えられるように先輩の手を借りながら何とかやってきました。これからどのように土木技術者として成長していくべきかを述べていきたいと思っています。

現在、土木行政を取り巻く環境は大きく変化しています。その変化を最もよく表しているのは「コンクリートから人へ」という言葉ではないかと思います。戦後、公共事業による急速な社会資本整備により、

高度経済成長の一役を担い、国民の安全・安心を形成してきました。しかし、人口減少、少子高齢化とむかい、国や地方自治体の財源悪化の中、足りないからといってこれまでどおりに道路や橋を新しく作っていく時代は終わったのだと思います。ただ、土木という仕事が減ることはあっても、なくなることは決してありません。これからは、古くなった道路や橋梁が急激に増加していく為、維持修繕に重きをおかねばならないし、また、地球環境の変化に伴う集中豪雨等に対して、人々の安全を守るために対策を講じていかなければなりません。そこで、今後土木技術者として必要になってくるのは、限られた予算の中で、社会資本整備として、今後何が本当に必要なのかを見極めることと、それを住民などへ対外的に説明、説得できることではないかと思います。ただ、何が本当に必要なかは、行政だけで考えるのではなく、住民や多くの人々の意見を聴く必要があると思うし、また、土木分野だけでなく、幅広い知識と教養が必要になってくるのではないかと考えています。

自分自身、採用されて1年近く経ち、仕事にもやっと慣れてきたところですが、業務を行っていてもまだまだ知らない知識だらけであり、また、業者や地元の方への対応力もまだまだと感ずることが多々あります。今後、土木技術者として日々の仕事を着実にこなし、知識や経験を積んでいき、また、自己啓発に努めることで、プロフェッショナルな土木技術者へと成長していきたいと思っています。

※直方県土整備事務所 都市施設整備課